

カーボンニュートラルへの取り組みについて



尾形 達

(株)ちばぎん総合研究所
経営コンサル第一部
主任コンサルタント

はじめに

昨年の夏は猛暑で、平均気温が1898年からの統計開始以降過去最高を記録したことも記憶に新しく、気候変動の影響は肌で感じるものとなってきております。

気候変動対策への取り組みとして、日本政府は2050年カーボンニュートラル(以下、CN)の実現を目標に掲げており、CNへの取り組みを既に進めている企業も多いと思います。そこで今回は、中小企業がCNに取り組む際のポイントについて、環境省の「中小規模事業者向けの脱炭素経営導入ハンドブック」を参考にご紹介します。

企業のメリットと取り組みの流れ

企業がCNに取り組むメリットは、主に以下の5点があげられます。

- ①エネルギーコストの削減
- ②競争力の強化、売上拡大
- ③知名度や認知度の向上
- ④低利の資金調達
- ⑤人材獲得力の強化

次に、企業が取り組む際のステップについてご紹介します。

ステップ① 情報の収集、方針の検討

地域、業界におけるCNに向けた目標や取り組み等を把握することが重要です。さらに、自社のサプライチェーン上の企業の動きや消費者の動きも重要です。主な取引先や顧客との会話を通し、CNへの取り組みの状況や要望、ニーズの変化等の情報を収集しましょう。政府や自治体等

による補助制度等の情報を収集することも有用です。

収集した情報を踏まえ、「自社ができることは何か」「どのような付加価値を提供できるのか」を考えます。

ステップ② CO₂排出量の算定、削減ターゲットの特定

自社の事業所全体のCO₂排出量を算定します。CO₂排出量は、活動量(電気や燃料の使用量)に係数を乗じることで算定することができます。(例: ガソリン使用量×ガソリン1kl当たり排出量係数=ガソリン使用によるCO₂排出量)

自社のCO₂排出量を算定するに当たり、主要な排出源となる事業活動やその設備等を把握することが重要です。主要な排出源を把握することで、削減対策を検討する際の『当たり』を付けることができます。

ステップ③ 削減計画の策定

自社のCO₂排出状況を踏まえて、太陽光発電設備の設置や省エネ対策等のCO₂削減対策を可能な限りたくさん洗い出してみましょう。それらの中から、実行できるものをリストアップし、実施計画を策定します。すぐに取り組めるものから手を付け、徐々に広げていくようにしましょう。

CNへの進め方は企業ごとに異なりますが、2050年の最終ゴールは共通です。理念や掛け声に終わらせず、定量的な目標を設定し着実に実現しましょう。

さいごに

特に中小企業では、まずは初期ステップの脱炭素化に対する意識醸成や排出量算定から着手し、段階的に進めていくことが重要です。脱炭素に向けて取り組むことは、企業自体の今後の成長や持続可能性を高めることにもつながります。

また、中小企業では、特有の悩みや問題点を抱えていることも少なくありませんが、そこを解決しながら脱炭素経営にアップデートしていくには丁寧なコンサルティングが有用だと思います。

弊社では、①CO₂排出量の算定、②削減計画の策定、③削減方法の検討、④外部機関による認証取得、⑤外部ステークホルダーへの情報発信等の支援を承っております。企業ごとの個別の状況に合わせたきめ細かな脱炭素経営への支援コンサルティングを行っておりますので、お気軽にご相談ください。

